

全国学力・学習状況調査の結果を お知らせします

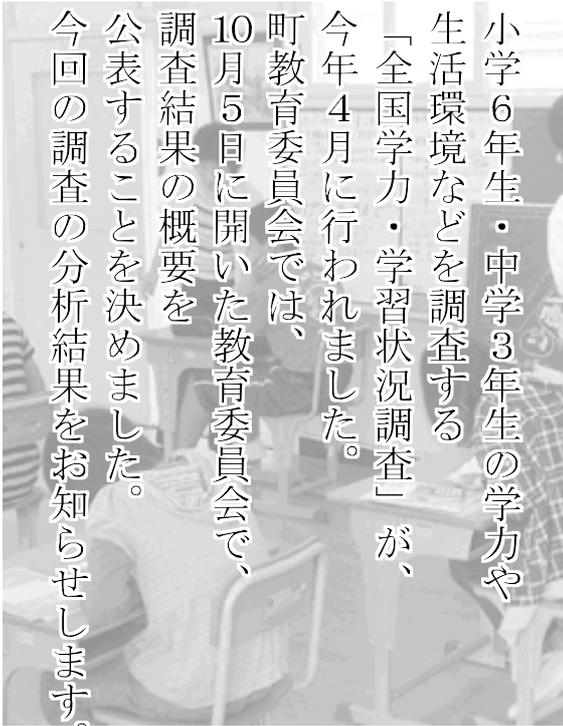
小学6年生・中学3年生の学力や生活環境などを調査する

「全国学力・学習状況調査」が、今年4月に行われました。

町教育委員会では、10月5日に開いた教育委員会で、調査結果の概要を公表することを決めました。今回の調査の分析結果をお知らせします。

国語・数学と意識調査など実施

この調査では、国語、算数・数学の2教科について、問題A（知識に関する問題）と問題B（知識・技能などと実生活のさまざまな場面に活用する力をはかる問題）の調査、および意識調査（生活習慣、学習に対する意識などの調査）が行われました。



また、今回は「情報や資料を目的に応じて読み取り解決する。説明する。整理する」などの問題が多くありました。ここでいう学力とは、「全国学力調査」ではかることのできる学力の一部であり、児童生徒の学力のすべてを表しているものではありません。結果を分析して町の教育の課題を明らかにし、改善に役立てることを目的としています。

小学校では...

全国平均よりやや低めの結果に

右下のグラフのとおり、小学校では、国語、算数とも全国の平均正答率よりやや低い結果になっています。

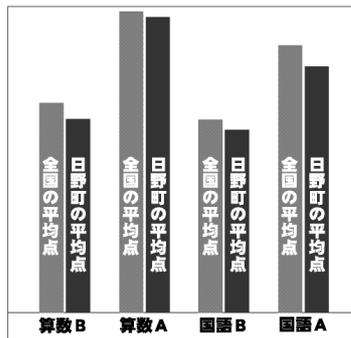
領域や評価の観点、個々の問題ごとに見ると、全国の平均正答率を上回っているものもあります。

全国平均より高い例として、国語では、「漢字を読む（86.9%）」、「順序を考えて書く（81.6%）」、「表現に着目して読む（64.9%）」、「意味のまとまりをつかむ（33.3%）」など。算数では、「小数の除法の計算（84.2%）」、「偶数の意味（86.8%）」、「図形の性質（86.8%）」などがあります。平均よりも低い例は、国語では、「意図が伝わるように情報を取り出す（81.1%）」

「話し合いを計画的に進める（50%）」など。算数では、「割り算の計算（94.7%）」、「資料を分類整理する（57.9%）」、「筋道を立てて考える（26.7%）」などがあります。

計画的な家庭学習、予習・復習を

このように、問題を一問ずつ見れば、本町の正答率が高くて、全国平均より低いもの、また、逆に、正答率は低くても全国より高いものなどさまざまです。重要なことは、児童一人一人に学年に応じた確かな学力をつけることです。今回の学力調査と質問紙調査から、正答率の高い要因として、「読書が好き。毎日読書する」「予習、復習、宿題、苦手な教科の勉強など、内容の違いはあっても家庭学習をする」「各学校が児童の実態に



応じて行っている少人数指導や複数の教員による学習」などが考えられます。

逆に正答率が低いのは、国語、算数とも、「筋道を立てて考える、相手や自分の立場や意図を明確にして話す、聞く、テーマに沿って自分の考えをまとめる」など、「話すこと・聞くこと」に関することです。

基礎的・基本的な内容はおむね理解しているのに、「自分の考えを発表する機会を増やす。話し合う活動をよく行う。自分の考えを他人に説明したり、文章に書いたりする」などを授業や家庭生活の実態と合わせて分析し、「話すこと・聞くこと」「活用する力」を育てることが必要です。

また、家庭学習においては、計画的に勉強する、学校の授業の予習・復習をするという項目が課題です。

中学校では...

「読むこと」の正答率が平均上回る

中学校では、国語A、国語B、数学Bは、全国平均正答率より高いが、数学Aはやや低い結果になっています。

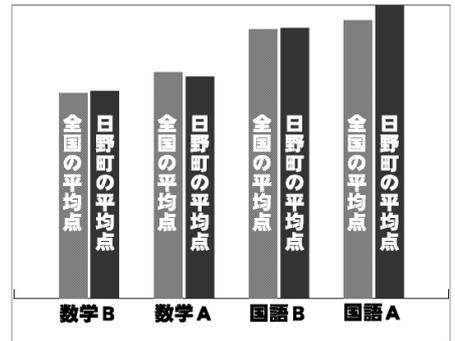
国語では、小学校と同様、「読むこと」の正答率は高く、「内容を正確に読み取る」(90・5%)、「本文の展開に即して内容をとらえる」(85・7%)、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」(83・3%)は高い正答率になっています。

「話すこと・聞くこと」については、「話の展開の仕方の工夫」(92・9%)は、全国

の正答率よりは高いが、「話し方の工夫」(71・4%)、「必要な情報を的確に聞き取る」(90・5%)、「聞いた話を判断し、適切に質問する」が、全国の平均正答率より低くなっています。

従って、目的や焦点を絞った「聞き方・話し方」が課題であるといえます。

数学では、「図形の基本的な知識」は理解し、全国平均より高くなっています。



しかし、「筋道を立てて考える、数学的な表現を用いて説明する」などの正答率は低くなっています。

中学校では、「自分の考えを発表する機会が与えられ

ている(88・3%)」や、話し合う活動を良く行っている(61・9%)」などが全国平均を上回っています。

家庭学習の習慣化を

また、本町の生徒は、「平日毎日1時間以上の家庭学習61・9%」、「自分で計画を立てて勉強している」(35・7%)、「テスト直し」(30・9%)、「苦手な教科の勉強」(33・4%)などが全国平均を下回っています。

今後、集団学習の中で鍛える活動の充実をさらに図り、家庭学習の習慣化と工夫が必要であると思われます。



小・中学校の交流学習

などが高い割合を示しています。幼いころからの読書習慣や、小学校のふるさと学習、中学校での町内職場体験学習などの地域連携活動の成果であると思います。

日野町の今後の取り組み

教育委員会としては、今回の調査結果を学校と連携して分析し、今後の教育活動に生かしていきます。

小中一貫教育の取り組みの中で、交流学習の推進、中学校の先生と一緒に学習したり、必要に応じて少人数学習を取り入れながら、一人一人の学力の向上に努めていきます。

また、児童生徒の家庭学習については、各学校で家庭学習の手引を作って学習習慣の育成に努めています。ご理解ご支援をお願いします。

聞くこと・話すことの力を育てよう

今回の全国学力・学習状況調査の結果から、本町の児童生徒の共通課題として、「聞くこと・話すこと」の力を育てることが第一であると思います。

わが国の社会生活の中でクロースアップされているのがコミュニケーション能力です。この能力の基礎は、「聞くこと・話すこと」です。「しな

がら聞く」「しながら話す」、

一見合理的かもしれませんが、「相手の顔を見ながら聞く・話す」とでは、心に留める内容も大きく違うことでしょう。

学校では、「聞く」については、「姿勢を正して聞く、わからなかったことは聞きなおす」。

「話す」については、「自分が発表しようとする内容の要点を短冊黒板にまとめて発表す

る」。発表に対しては、「うなずきながら聞く授業を行っています」。

また、家庭生活の中で、子どもたちに話すときは、言葉だけでなく気持ちを込めて話しかけていたきたいと思えます。

そして、話の後は、「お父さんやお母さん(おじいさんやおばあさん)は(どう思う)か(考える)が、(お子さんの名前)はどう思う。どう考える」と、子どもの気持ちや考

豊かな心と豊かな体験活動を

児童・生徒の質問紙調査の中で、地域学習への関心や地域活動参加に高い回答がありました。「読書が好き」、「ふだん家庭で読書をする」、「毎朝朝食を食べる」、「近所の人にあいさつする」、「人の気持ちがわかる人間になりたい」